

志の実現に向けて 11

はじめに

昇陽祭が終わり、校内は一段落したところでしょうか。普段の落ち着きを取り戻したようです。

さて、不安定な天気が続いています。それでも、雨上がりに漂う匂いはいいものです。少し調べたところ、雨上がりの匂いとは、「ゲオスミン」とのこと。「ゲオスミン」は、土中のバクテリアなどによって作り出される有機化合物のカビ臭いような匂いで、雨水によって拡散します。「ゲオスミン」は雨水が蒸発し始める際に匂いが強まるので、雨上がりに特徴的な匂いとして感じられるそうです。そろそろ梅雨明けの季節を迎えます。いよいよ本格的な夏を迎えます。

「模擬試験の復習」について

先日、4～6年生を対象とした模擬試験が行われました。模擬試験の復習は、模擬試験当日と答案返却時の最低2回行う必要があります。また、特に模擬試験当日の復習は大切です。まだ取り組んでいない人は、夏季休業中に取り組むようにしてください。

「2023年度入試を振り返る」について

「河合塾 Kei-net」に、「2023年度入試を振り返る」として2023年度入試の概況がまとめられていました。以下は、その概要をまとめたものです。なお、今回は、「国公立大学の概況」についてです。

■ 国公立大学の概況

◇ 前年並みの志願者数

国公立大学の志望動向については、前期日程の志願者数は前年比99%、後期日程で同98%、中期日程で同101%と前年並みでした。

〔国公立大学入試 一般選抜の入試結果〕

	志願者数		合格者数		倍率(志/合)	
	2023	前年比	2023	前年比	2023	前年比
前期	231,415	99%	91,192	99%	2.6	2.5
後期	160,068	98%	20,812	98%	7.7	7.7
中期	31,663	101%	5,113	106%	6.5	6.2

下の表は、地区別に2019年度から5年間の倍率の推移をみたものです。いずれの地区も2019年度よりも倍率がダウンしています。2023年度で倍率が3倍を超えているのは首都圏のみとなっています。

また、後期日程では実質倍率(受験者数/合格者数)が2倍を切った大学が、今年は16大学ありました。さらには、入学者数に欠員が出ると実施される欠員補充2次募集では、今春は13大学で計143人の募集がありました。欠員補充の実施大学数も募集数も年々増加しています。国公立大学でもあちらこちらで競争緩和の兆候がみられます。国公立大学の志願者数の推移を少し長い期間で見ると変化がわかります。

〔国公立大学入試 地区別倍率の推移〕

地 区	倍率(志/合)				
	2019	2020	2021	2022	2023
北海道	2.6	2.4	2.3	2.3	2.3
東 北	2.7	2.6	2.5	2.5	2.4
北関東・甲信越	2.7	2.6	2.3	2.3	2.3
首都圏	3.4	3.2	3.1	3.1	3.2
北陸・東海	2.8	2.6	2.6	2.5	2.5
近 畿	2.9	2.6	2.6	2.7	2.7
中国・四国	2.6	2.6	2.5	2.4	2.2
九 州	2.6	2.5	2.4	2.4	2.3

下の表は、学部系統別の志願状況をみたものです。

文系は、「文・人文」「社会・国際」系統で志願者が減少しています。また、コロナ禍以来、不人気の国際系の分野では、依然として厳しい状況が続いています。一方、「経済・経営・商」系統では、志願者は前年比104%と増加しました。

理系では、「工」学系で志願者が減少したものの、「理」「農」学系で堅調に志願者を集めました。「獣医」「医」「歯」「薬」などの難関資格系の分野も、昨年に引き続き受験生の人気を集めました。

学際系の「情報」分野では、志願者は増加していますが、学部・学科新設にともなう定員増によるところが多く、一概に人気とはいえない状況です。

〔国公立大学 学部系統別の志願状況〕

国公立大学全体	文・人文	外国語	地域・国際	社会・国際	国際関係	法・政治	法・法律
99%	92%	91%	86%	93%	85%	99%	94%
経済・経営・商	教育（教員養成課程）	教育（総合科学課程）	芸術・スポーツ科学	理	工	農	獣医
104%	99%	105%	100%	100%	96%	102%	111%
医・歯・薬・保健	医	歯	薬	看護	生活科学	総合・環境・情報・人間	情報
103%	106%	112%	101%	97%	97%	97%	116%

下の表は、国公立大を3つに分けたグループと、難関10大学の大学別の志願状況をみたものです。国公立大全体の志願者数は前年比99%でした。これに対し、難関10大学の志願者は前年比99%と前年並みとなり、準難関・地域拠点大の志願者は同103%と増加しました。一方で、その他大は同97%と減少しています。

〔国公立大学の志願状況〕

難関10大学	準難関・地域拠点大学	その他大学
99%	103%	97%

難関10大学の個別の大学の状況をみても、東京大学では、志願者数は前年比98%と減少しました。文二で前年並みの志願者が集まりましたが、文一、文三では減少しました。理科類では、理一で志願者減、理二で増加しました。理三では第1段階選抜の予告倍率が3.5倍から3.0倍に狭まりましたが、志願者数に影響はありませんでした。京都大学では前年比103%と2年連続で増加しました。経済、理学部などで前年から1割以上増加しています。一方、志願者が減少した学部ではいずれも減少幅は小幅にとどまっています。

東京工業大学は、東京医科歯科大学との統合を発表した注目度の高まりから、前年比110%と志願者を増やしました。

一橋大学は72年ぶりの学部新設となるソーシャル・データサイエンス学部の影響もあり、前期日程で前年比102%、後期日程で同140%と志願者が増加しました。ソーシャル・データサイエンス学部を後期で出願した受験生が、前期日程でどこに出願したかを確認すると、東京大学の理一・理二が約半数を占めたほか、文科類も全体の15%を占めました。難関大学で後期を実施する大学が少ないなか、東京大、とくに理一・理二志願者の新たな後期併願先となりました。

〔難関10大学の志願状況〕

北海道	東北	東京	東京工業	一橋	名古屋	京都	大阪	神戸	九州
98%	97%	98%	110%	102%	98%	103%	99%	97%	99%

下の表は、過去10年の難関10大学とそれ以外の大学の国公立大前期日程の志願者数の推移です。この間、難関10大学の志願者は約2千人減少しています。割合にすると約3%の減少です。一方で、難関10以外の大学の志願者数は約2.9万人減少しています。割合にすると約14%減少しています。

〔国公立大学志願者数推移 難関大学10大学 vs その他大学〕（単位：万人）

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
難関10大学	5.8	5.7	5.8	5.8	5.9	5.8	5.5	5.5	5.6	5.6
その他の大学	20.5	20.2	20.1	20.1	19.9	20.1	18.8	18.1	17.9	17.6